



乾かなしいと

百合香

武川 慎
Takekawa Sin



百合香と乾かないシーツ

武川 慎











うわあ

さすがです
ユリカ先輩♪

それにしても
こんなに大きな
氷の塊…

一体どうやって
世界と神を欺いたら
現界^{げんかい}させられるん
ですか？

ほんと
不思議……

この辺りじゃ
凍っても
これくらいにしか
ならないのに……



ミルドラーデン 魔法学院

華族や士族を
はじめとした

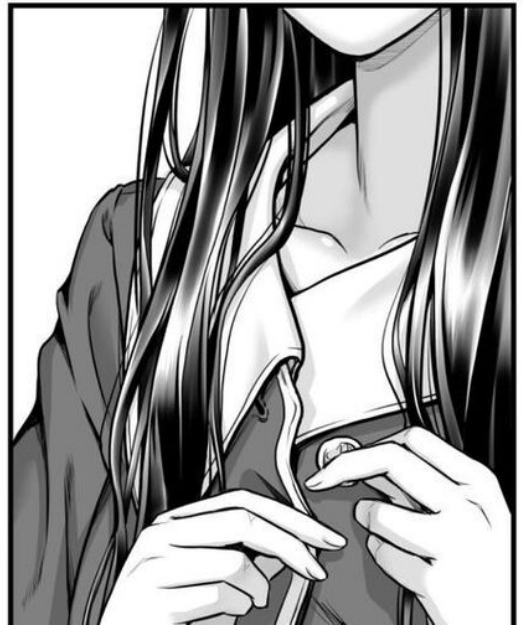
特に強い魔力を
持って生まれた
者たちが集う
エリート養育機関
である

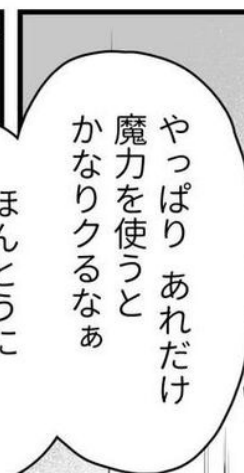
ここでは
新大陸 西部の
開拓地域に生息する
強大な魔物の脅威に
立ち向かい

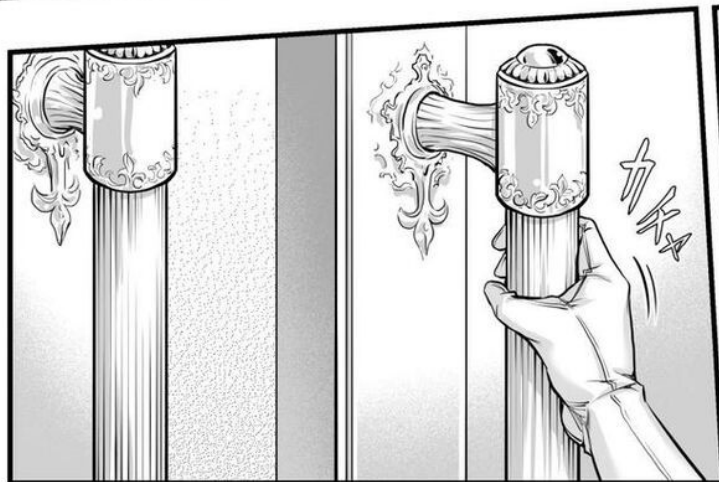
人類の新天地を
切り拓くべく

少女たちが
魔法の知識と
技術を学び

戦友との「絆」を
深めている











いつもながら
ヤバい光景ね…
みんなエッチ
すぎるでしょ…



ぜんせ
日本とは常識とか
全然違いすぎて
びっくりしたけど

女性だけしかいなくて
女性同士で繁殖できる
てんせい
世界に転生とか――

もう

最高すぎる
わよねっ♪

あっ♡
コリカ先輩

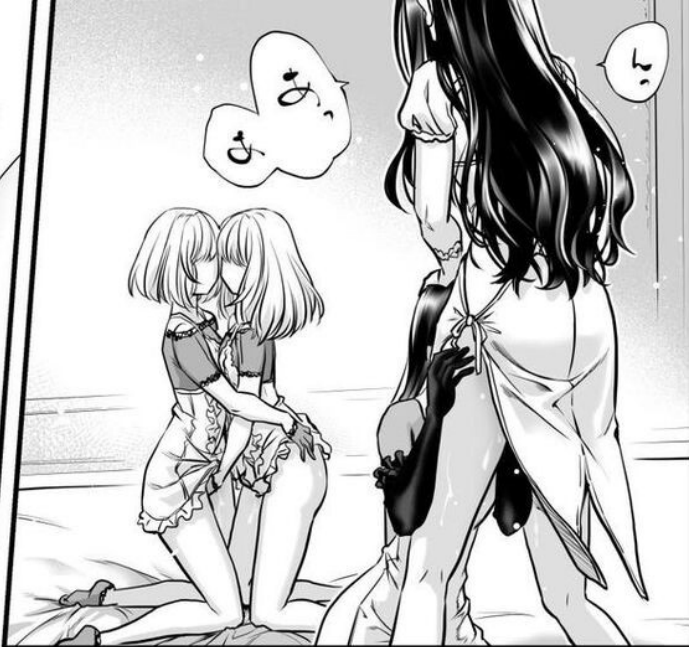


着替えるの
遅すぎですよ











ユリカは
私の子供を
産むの

それで
ユリカの子供を
産むのは私よ

それだって
私達が一人前の
魔法士として
認められてから
の話よ

それまでは
みんなちゃんと
ひにん
避妊しないと



：そんなこと
言ってますけど
大丈夫なんですか？

ご実家^{じっか}には
反対されてるって
聞きましたよ

かかく
家格がどうか
身分差がどうか
厳しいんですね？

そこはあれよ
私がすごく
がんばって

『子種^{こだね}が欲しい』って
望まれるくらいに
凄い魔法使いになれば
いいだけでしょ？

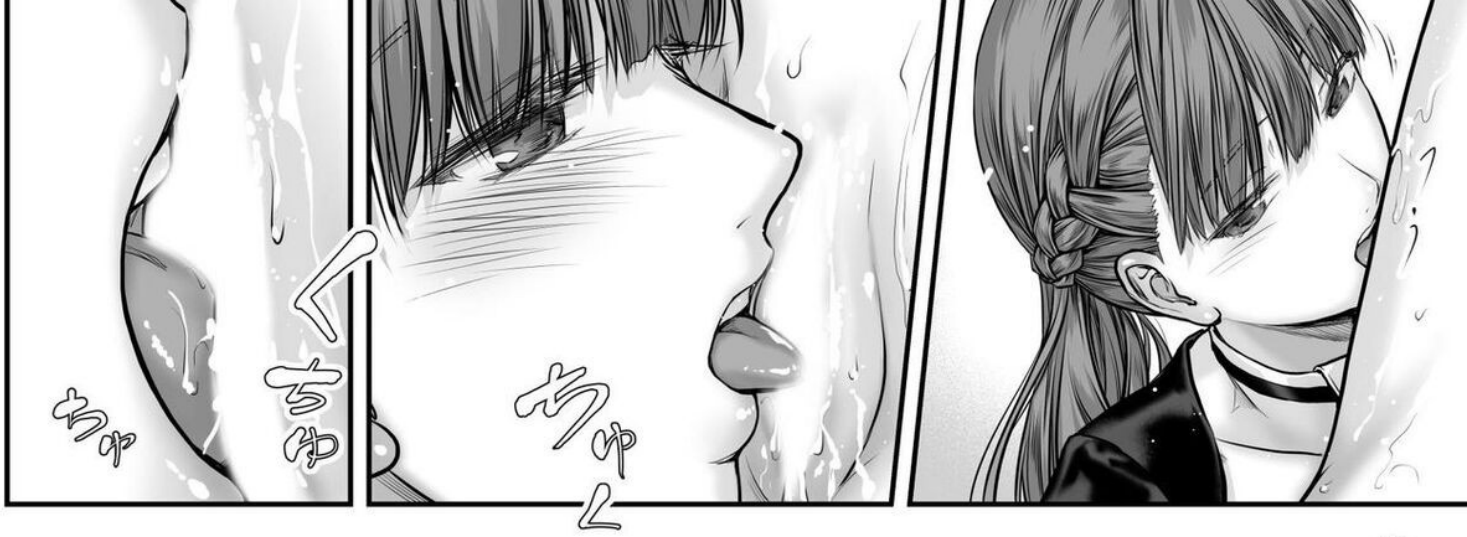
ええ……
信じてるわよ
エリカ

絶対に私を
孕^{はら}ませて
くれるって…

…わたしだって

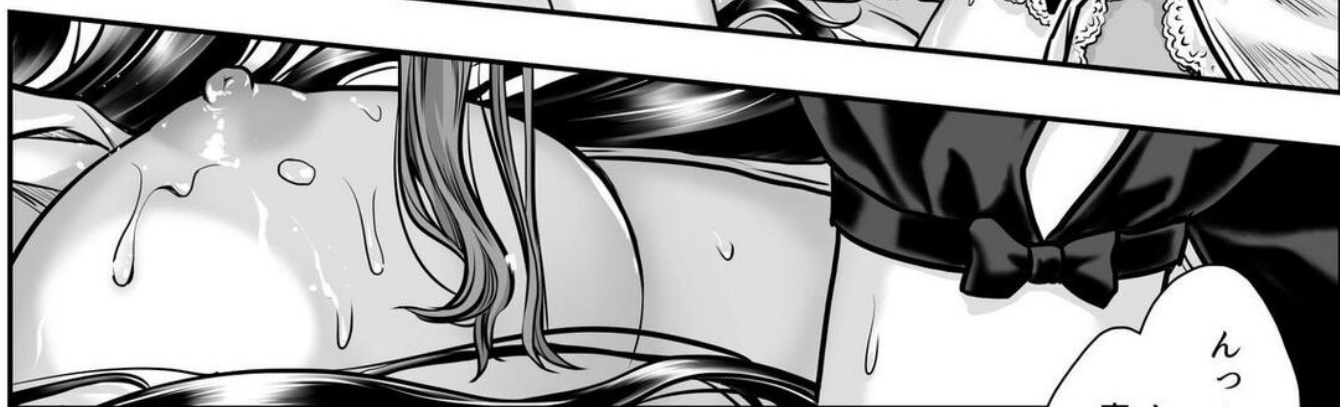












んっんっ
センパイ
素敵…♡



あんっ♡
わたしも
イク……っ♡





綺麗よ
ユリカ……

ふふふっ
愛液でドロドロに
なっちゃったわね



は……っあ
リーリヤ
いいっ



まだ
イツちゃ
ダメよ？



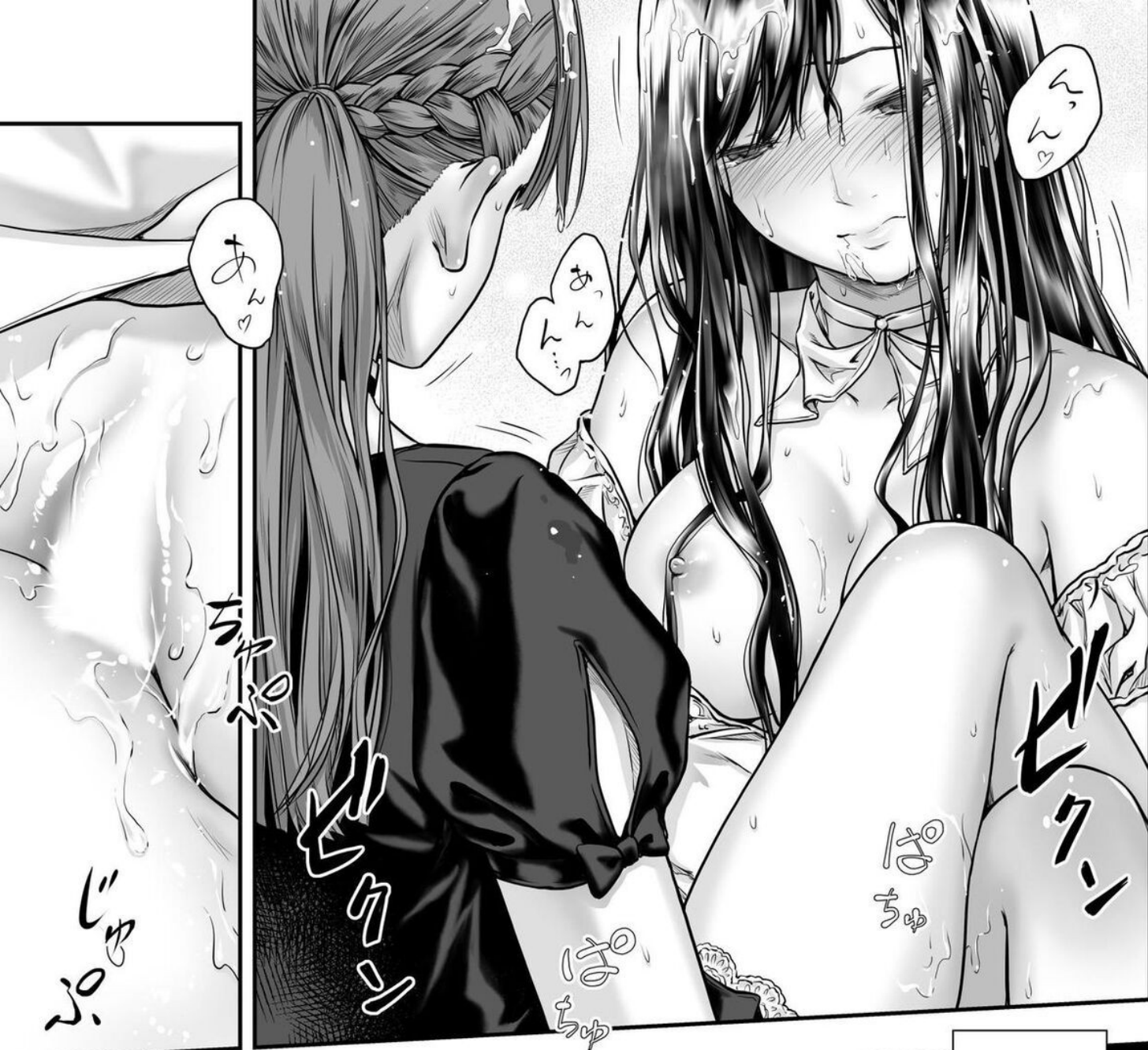


リーリヤ♡



いくなら
私の^{なか}膣内に...
でしょ？





愛液の魔力が
ピリピリって
染み込んできて…

ああ
ヤバイよお

気持ち良すぎる
でしょ……



ん…私も
いいわよ
ユリカ



あんっ あんっ
リーリヤあ♥
わたし
感じすぎて…っ

きゅん

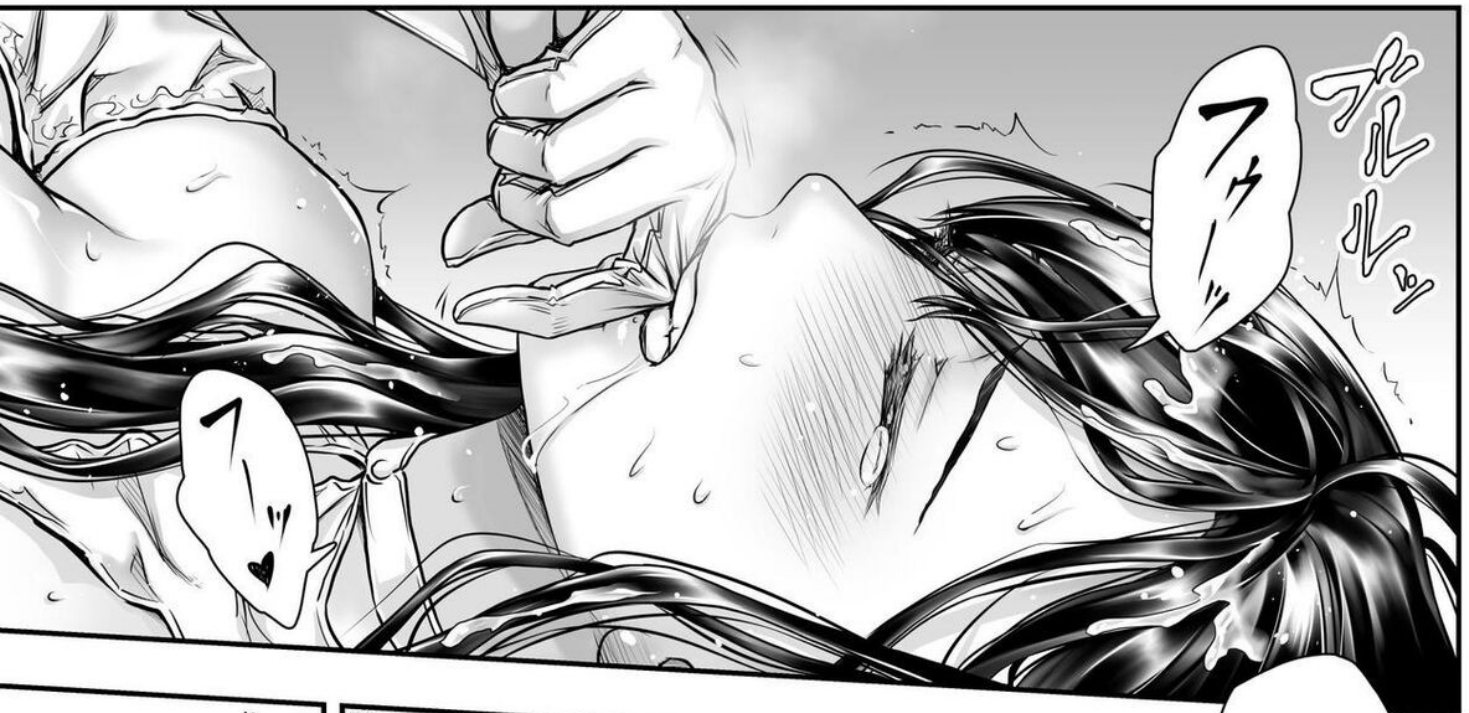


イッちやう
リーリヤ♥
ト

くちやん

ぐちやん
チユウ

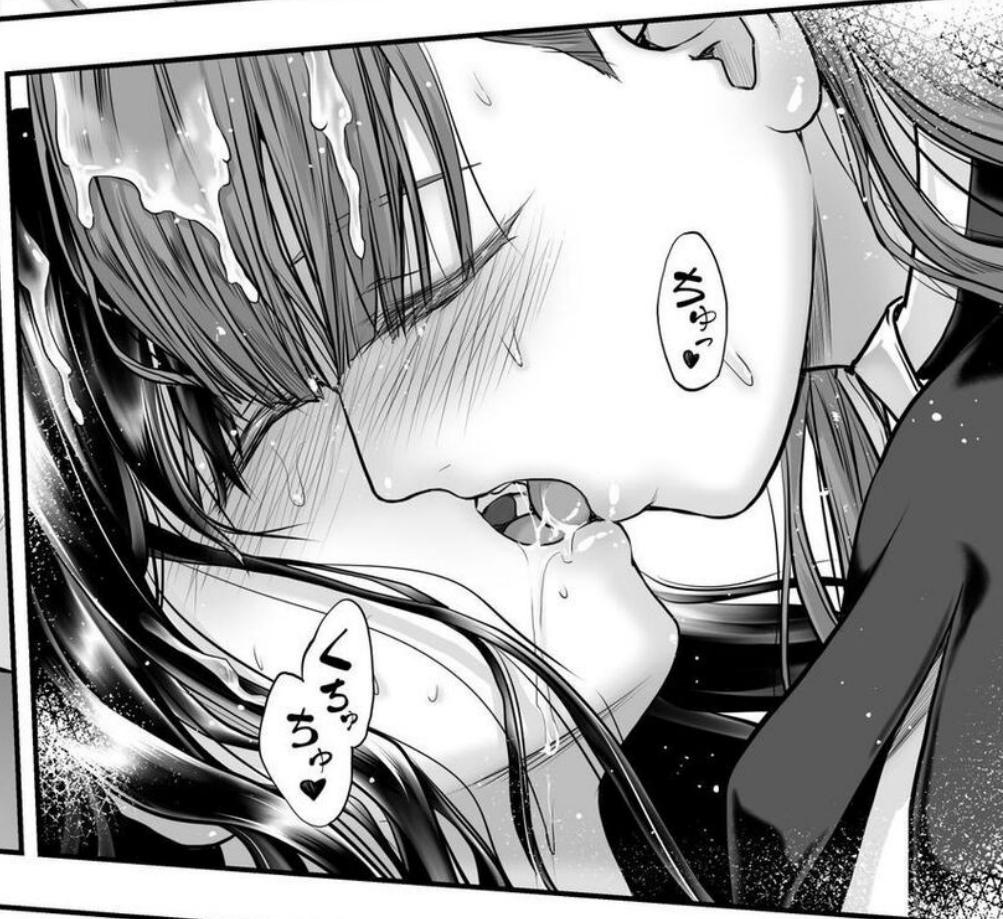














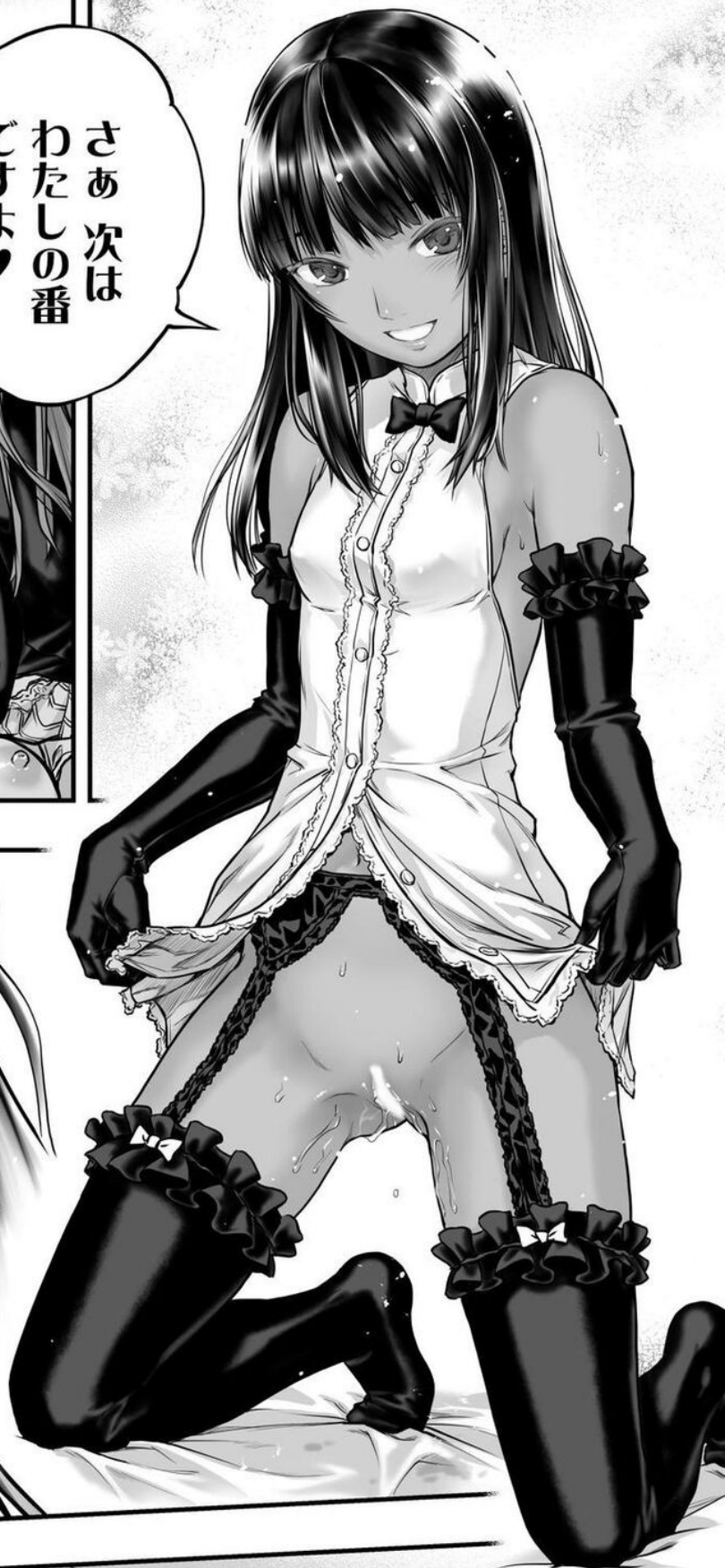


さあ次は
わたしの番
ですよ♡



サクノ
おいで…

……
いいよ







んっ
あんっ

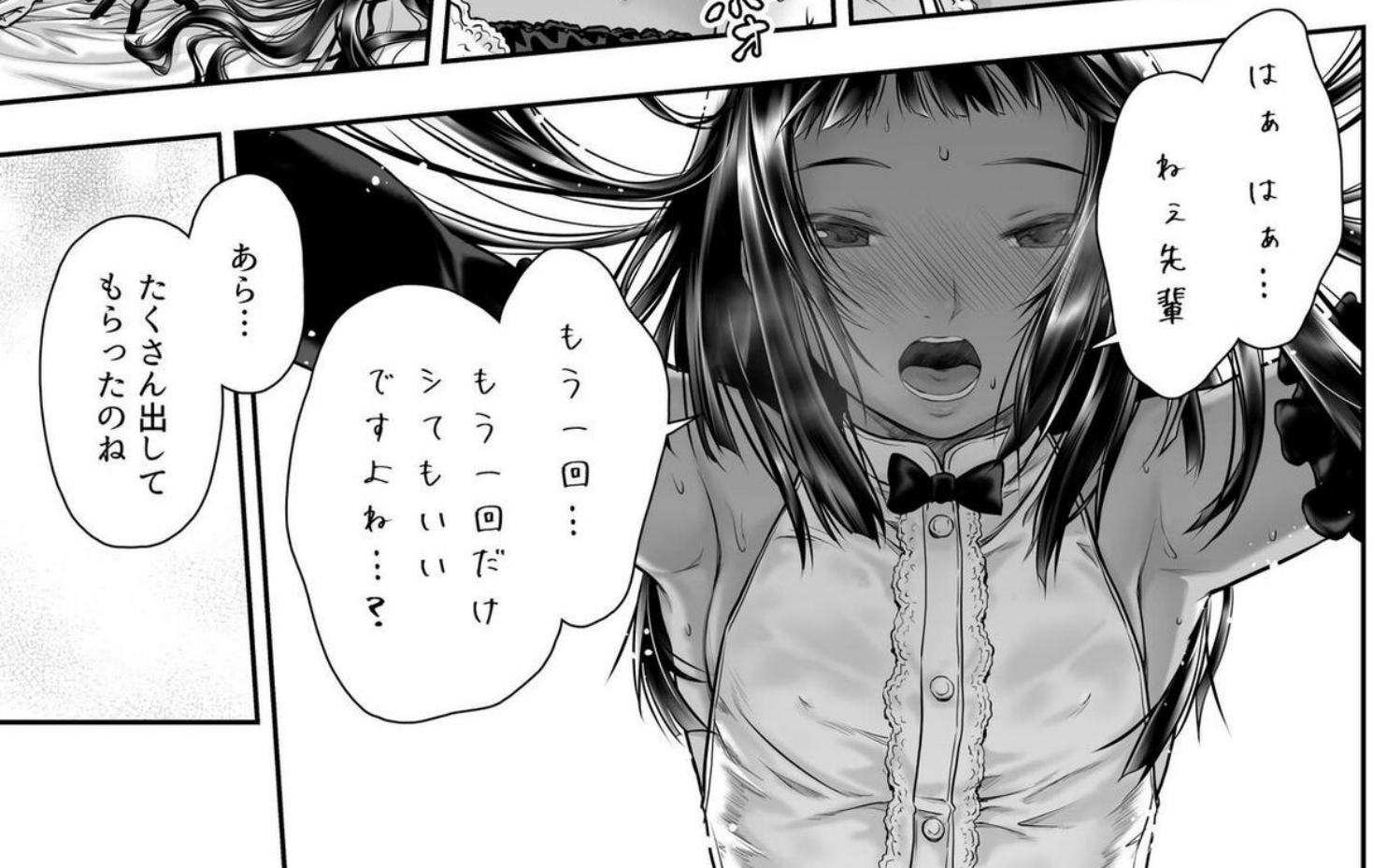
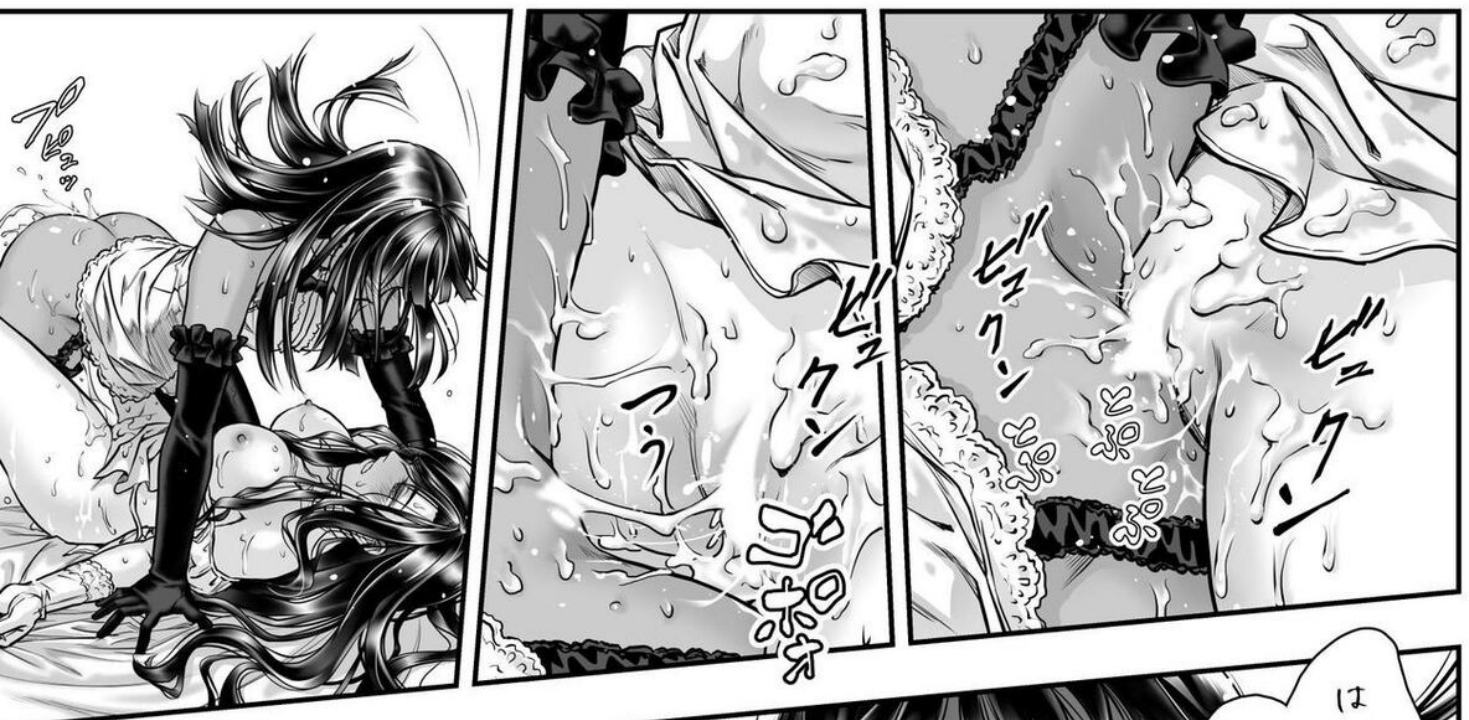
あっ

はっ
は…んっ



せんぱい
わたし…っ

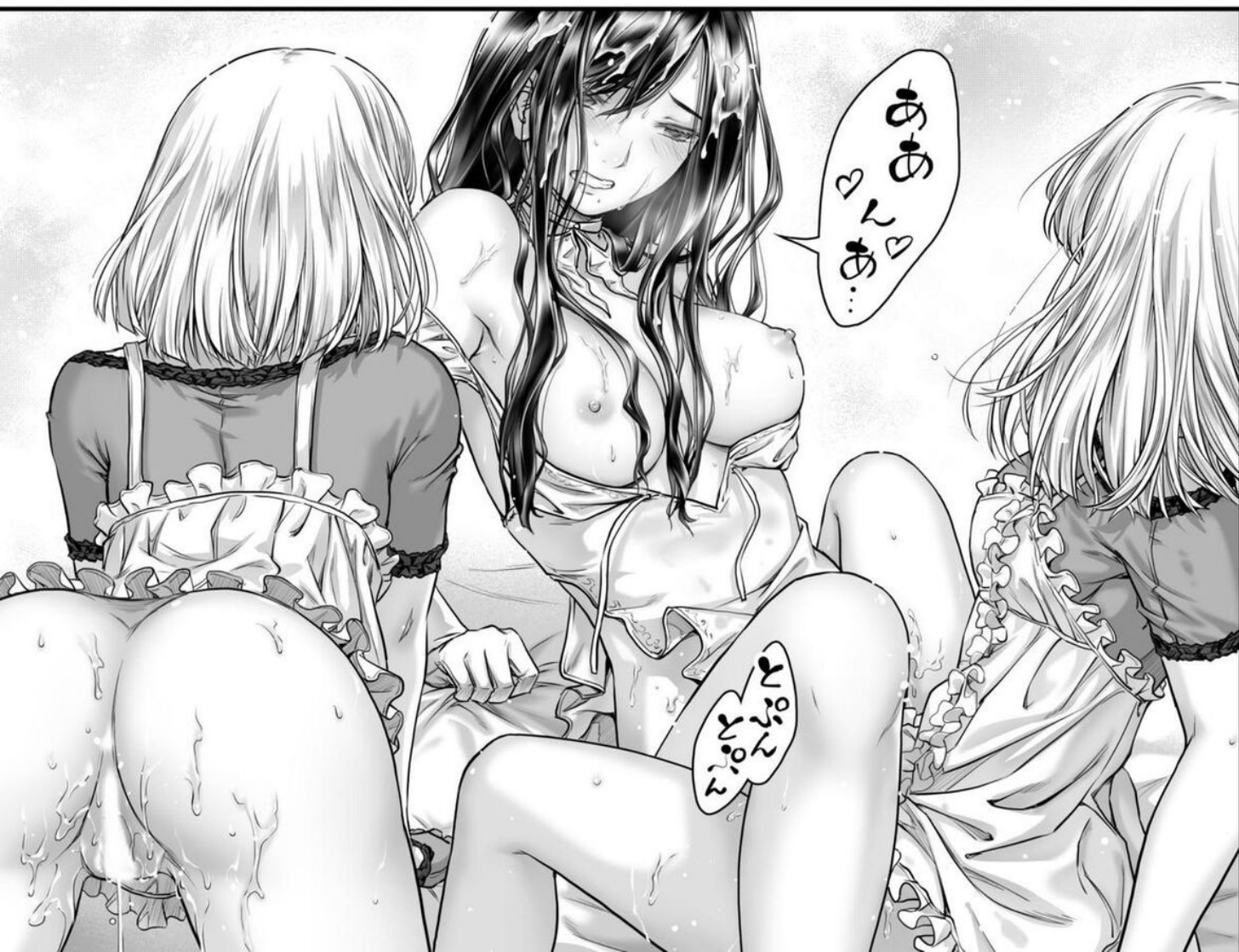
また
イク…ッ
イきますう♡

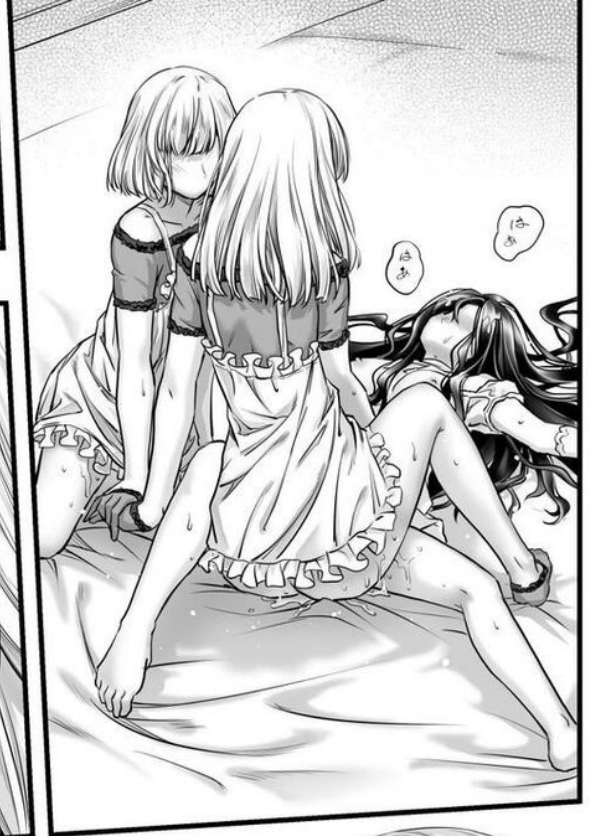


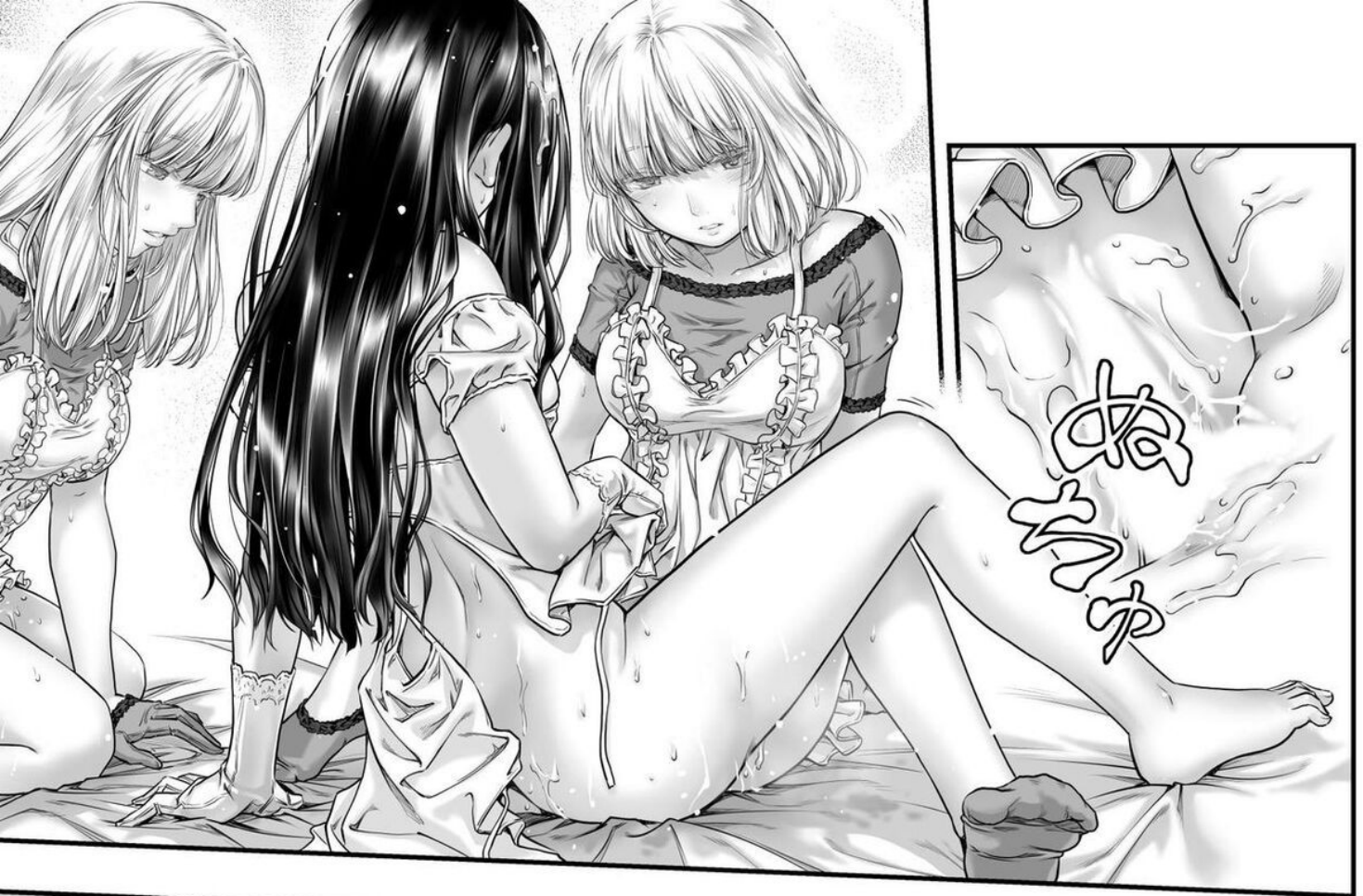


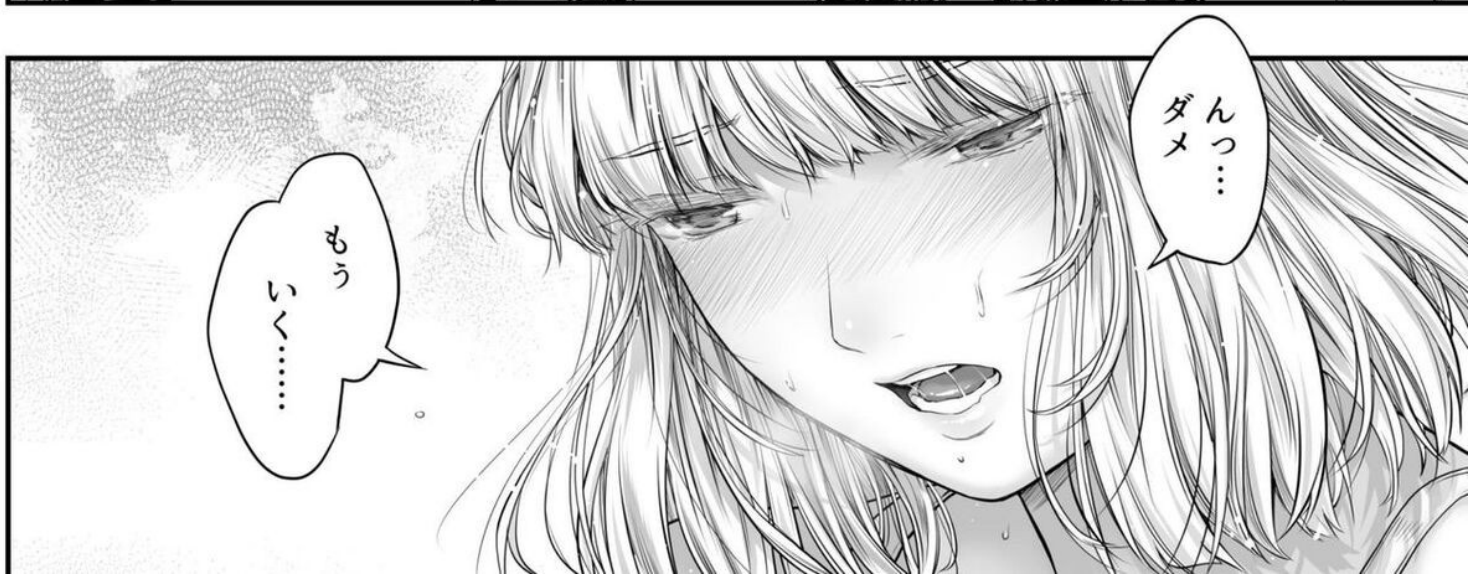
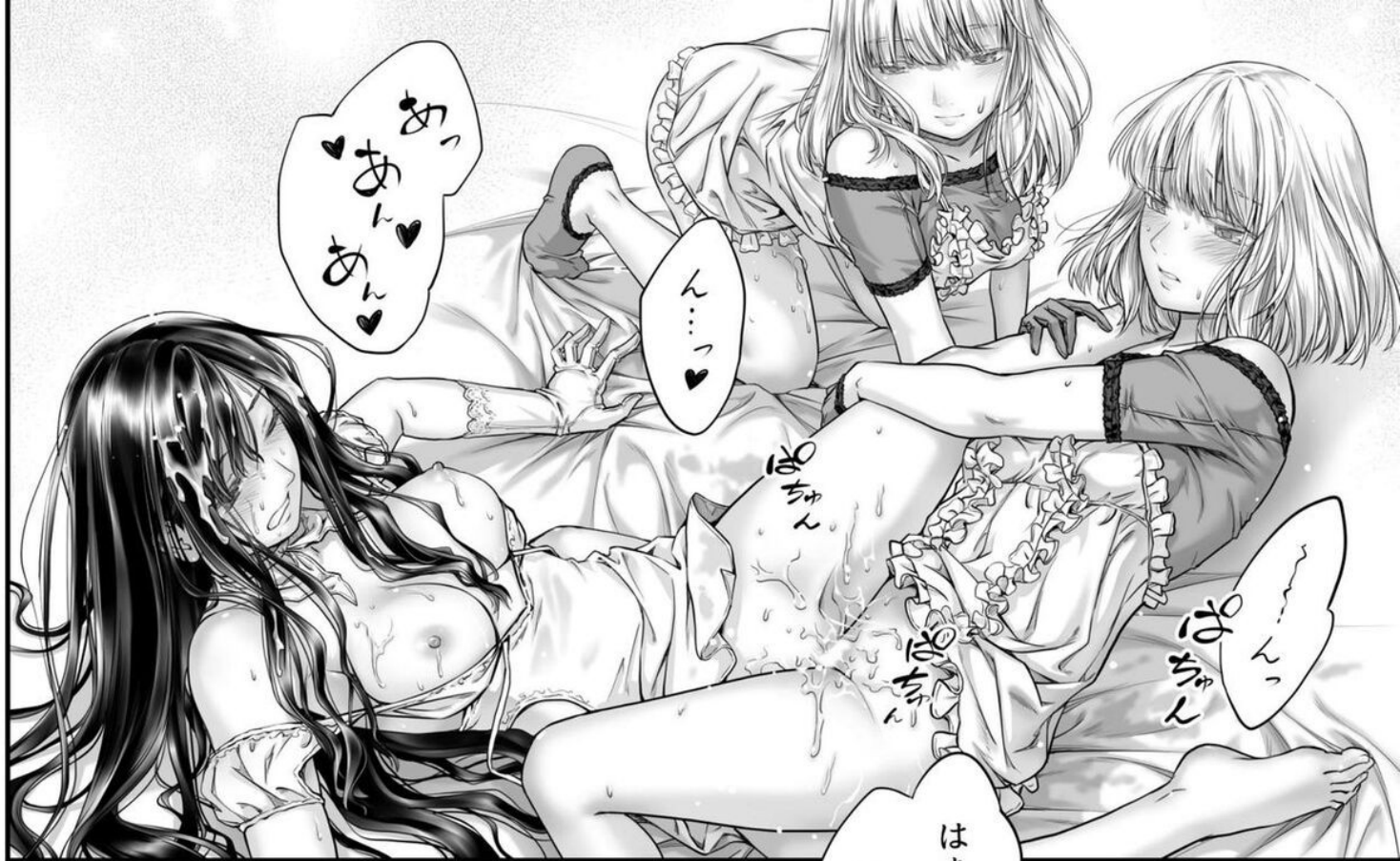


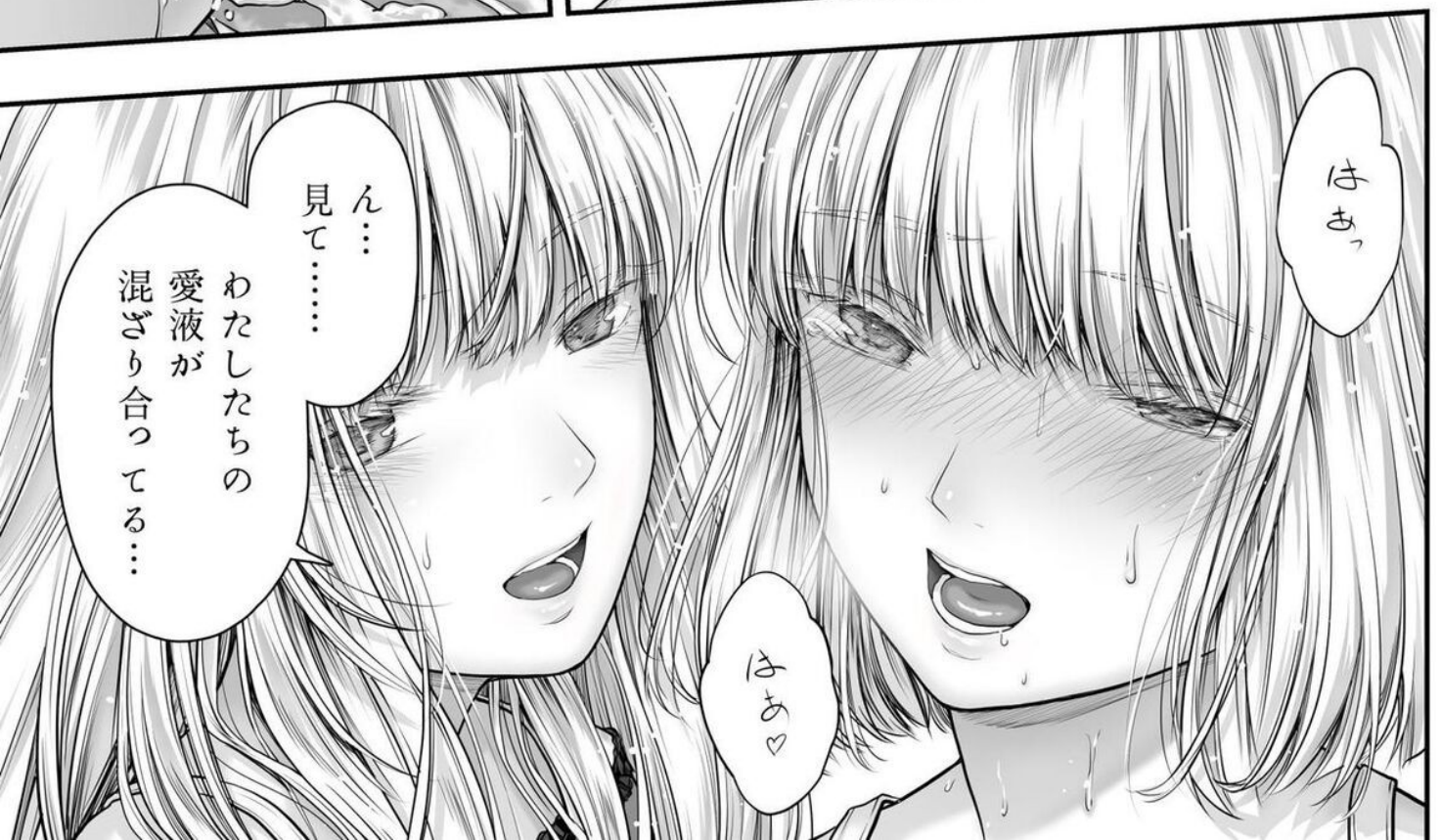










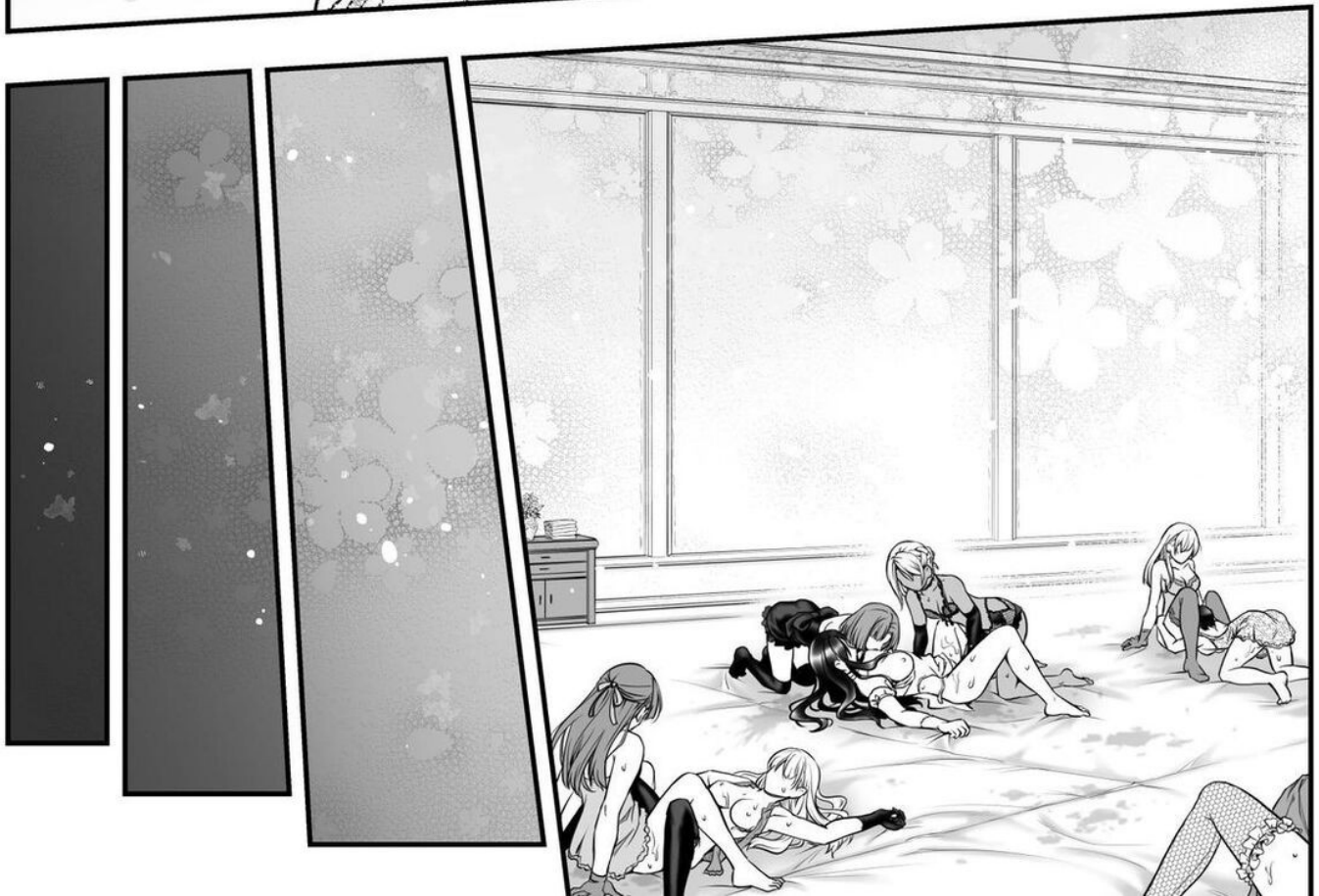






ユリカ
次いい
かしら？

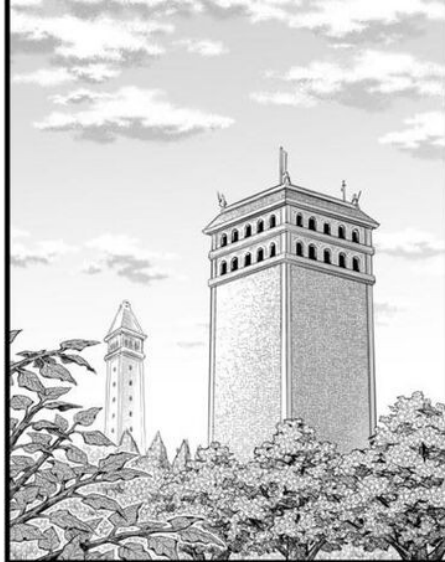






…なんかまだ
お腹がポカポカ
してるわ

えす
えす



先輩
昨日も大人気
でしたもんね

どれだけ
出まわってるんか

というかどうせ
『親睦会』の後も
リーリヤ先輩と
してたんでしょ？

二人つきりで!!



そりやまあ
せつかくだし…ね？

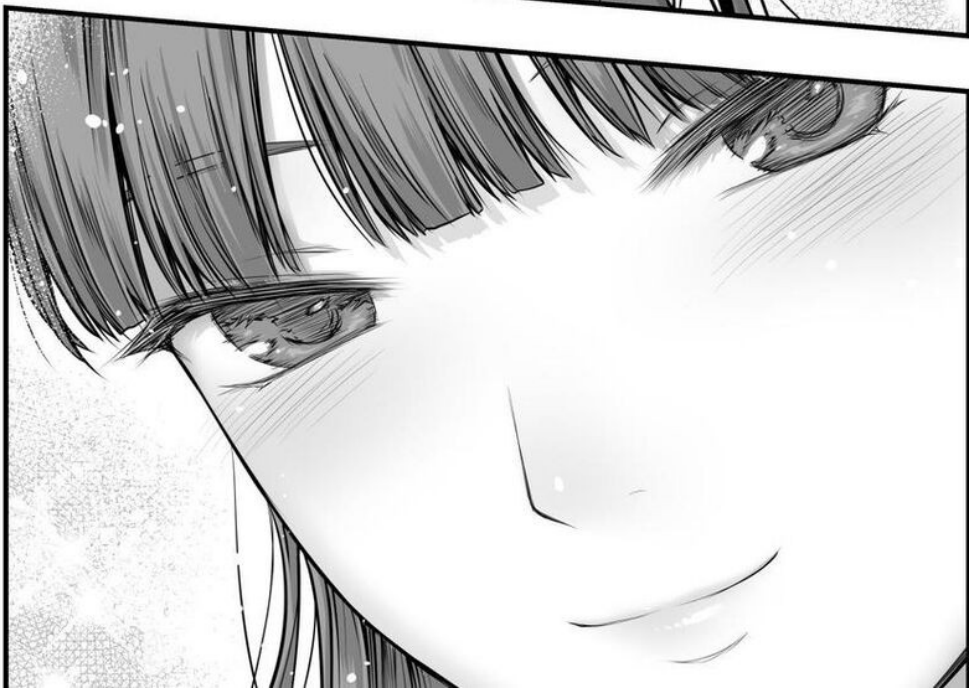
みんな
エッチすること
が
避妊方法って

やっぱり
凄い世界
だね





いつか
あなたの愛液だけで
いっぱいにならせて
あげるからね





ユリカ

現代日本からの転生者。

名付け親である神官から、前世の名前『百合香』^{ゆりか}と同じ響きの名前を授けられた。

前世で観たアニメや漫画の影響からか、魔法に対して非常に強い憧れを抱いている。
『氷属性』『居合斬り』『糸使い』は最強だと信じている。
また、魔法発動時に不必要に凝った独自の詠唱をする。

幼少期から魔法に傾倒して才能を開花させ、平民出身でありながら『ミルドラーデン魔法学院』への入学を認められるまでに成長した。

学院では座学は学年ごとに、実技は出身地の領ごとに別れて行われるが、どちらにおいてもトップクラスの成績を収めている。
前向きで面倒見が良いこともあり、仲間からの信頼も篤い。

将来の夢は超一流の魔法士になって、リーリヤと結婚すること。

ほぼ全ての動植物に雌しかおらず、雌同士で繁殖するという世界に驚きつつも順応し、日々の生活を心から楽しんでいる。

性行為の経験人数は現時点で60人以上にもなるが、この世界の『士族』としては平均的な人数である。
これは『士族』が魔物と戦う歴史のなかで育まれてきた文化としきたりによるものであり、魔物と戦う最前線においても『親睦会』は頻繁に行われている。



『ミルドラーデン魔法学院』 制服

特殊な生地と製法を用いて作られた制服で、高い防御力と環境適応性能を持つ。
非常に高価だが、全て学院から無償で支給されている。

腰から下げている剣は魔力を込めることで切れ味が増すほか、魔法を発動する際にはその威力を増大させる効果を持っている。

リーリヤ

『ミルドラーデン魔法学院』高等部2年生。
ユリカの同級生で、恋人。

『士族』の中でも名門の出身で、責任感が強く誇り高い。
平民出身のユリカに対しては当初厳しい目を向けていたが、次第にその才能と人柄に惹かれ始め、中等部の卒業間近にリーリヤから告白して恋人となった。

優等生で実家との関係も悪くはないが、ユリカとの交際については反対されている。
二人の仲を認めさせるため、日夜技術を磨いている。

実家からは優秀な子供を産むことが求められている。
この世界では子供の魔力を調べれば両親が誰であるか確実に判明するため、複数の相手と性行為をしても、それを理由とした跡継ぎ問題にはならない。
むしろ避妊のため多人数で性行為を行うことが『常識』であり、リーリヤは多くの領地の『士族』だけでなく、さらに身分の高い『華族』とも関係を持っている。



サクノ

『ミルドラーデン魔法学院』高等部1年生。
ユリカのことを慕う後輩。

明るく人懐っこいが、気まぐれで突飛な行動が多い
トラブルメーカー。

下級の『士族』の出身で、実技は得意だが座学は苦手。
平民出身ながら好成績を収めるユリカに憧れており、隙あらば子作りをしようとしている。

魔力による身体強化と近接戦を得意としており、戦闘面においては将来を期待される。



あとがき

皆様、こんにちは。
武川 慎と申します。

この度は私の初めての成年向け漫画、『百合香と乾かないシート』をお手に取っていただき、誠にありがとうございます。

とにかく自分が満足できる作品になるよう全力で描き続けるうちにどんどんページが増えていき、当初の予定の2倍近いボリュームとなりました。

色々大変でしたし、もの凄く時間が掛かってしまいましたが、とても濃厚でエッチな作品になったのではないかと思います。お楽しみいただければ嬉しく存じます。

『女性同士の性行為で子供ができる世界』を構築しただけのはずが、ずいぶんと特殊で背徳的な描写となってしまいました。ですが作中においては常識的で、お互いに敬愛し合う行為ばかりでありますし、『愛液と愛液が混ざり合えば愛の結晶ができる』それが当然という世界もきっとどこかにあることでしょう。そんなこんなで、本作は自分にとってとても思い出の深い作品となりました。

そしておそらく、

『世界で最も^{かいあ}貝合わせのシーンが多い漫画^(ギネス非公認)』
だと思っています。

この作品が、皆様の心に留まれば幸いです。

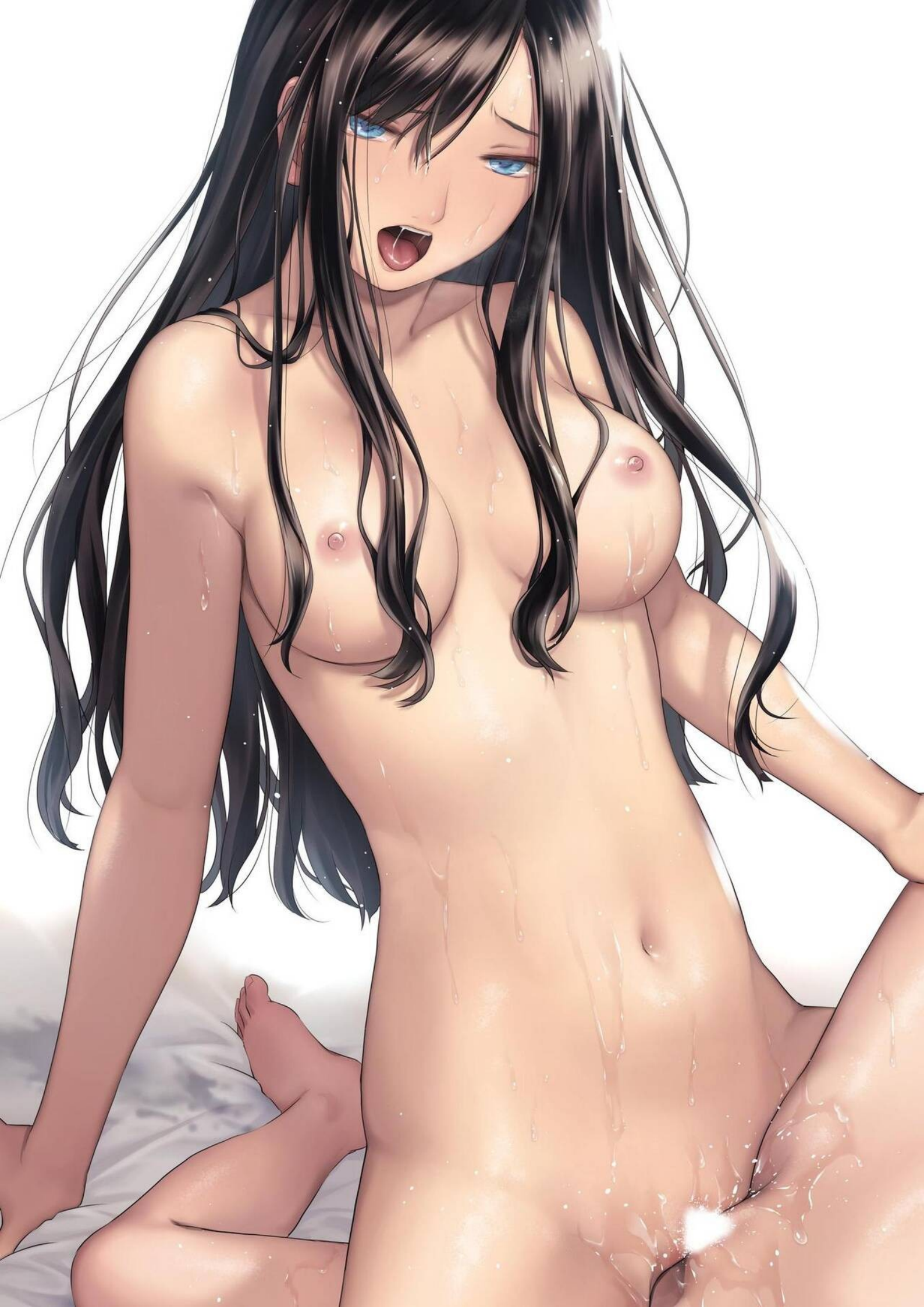
それでは、またどこかで巡り会えますよう……

武川 慎











百合香と乾かないシーツ

2021年 11月 発行

- ・ 本書の一部あるいは全部を無断で複製、複写、転載、WEB上へアップロードすることは、著作権法上での例外を除き禁じられています。
また、違法なインターネット配信と知りながらダウンロードする行為も、私的使用目的の複製とはならず、違法です。
- ・ 本書の内容を無断で改変、改ざん等を行うことを禁止します。

※この作品はフィクションです。

実在の人物、団体、事件等には一切関係ありません。

※本書の18歳未満の方の購入、閲覧を禁じます。

18歳未満の方への販売、陳列、貸与、譲渡、回覧を禁じます。

※日本の法律では、同意があっても13歳未満の者と性行為をすれば強姦罪に問われ、18歳未満の者と性行為をすれば都道府県の淫行処罰規定に該当します。

本書は犯罪を教唆するものではありません。

また、18歳未満の者の性行為を表現したものではありません。

著 者：^{たけかわ しん}武川 慎

連絡先：takekawasin@yahoo.co.jp

※内容によってはお答えできない場合があります。



百合香と乾かないシーツ

Presented by Sin Takekawa